













資料 2

花巻市オーガニックビレッジに関する 取り組みと今後の展望

令和7年7月28日 花巻市農林部農政課 農業振興係 蔦谷 千春



事例発表の流れ

- ①岩手県花巻市のご紹介
- ②花巻市オーガニックビレッジのはじまり
- ③(番外編)市の担当者の苦悩
- 4 花巻市オーガニックビレッジ宣言
- ⑤広がりが生まれる取り組み
- ⑥有機農業×〇〇
- ⑦活動していく中で見えてきたものと課題
- ⑧今後の展望
- 9おわりに



円万寺 観音山から見た花巻市内



岩手県花巻市のご紹介



泣き相撲

イギリス海岸

マルカンビル大食堂

るんびにい美術館

花巻東高等学校

花巻温泉

ふるさと納税

花巻まつり

早池峰神楽

花巻空港

宮沢 賢治



総面積:908.39km 、人口:89,031人 、世帯数:39,081世帯(R7.6月末時点)

産業別就業者: 第1次産業 10.7% 第2次産業 26.6% 第3次産業 60.3%(R2国勢調査)

地目別面積: 宅地32.07km(3.53%)、田 133.12km(14.65%)、畑27.15km(3.00%)、原野29.95km(3.29%)、 山林488.62km(53.79%)、その他197.48km(21.74%) (R7.1.1時点)



花巻市オーガニックビレッジのはじまり



花巻市内には持続可能な農業の実践に取り組む農業者がいる。

- ≪持続可能な農業の実践者のうちの2経営体のご紹介≫
- ◎ウレシパモシリ(花巻市東和町)…日本のパーマカルチャーの第一人者
- ◎農事組合法人みずほ(花巻市中北万丁目)…「みずほ米」ブランド
- (当時の担当者)「個々の活動にとどまらず、まち全体に取り組みを広げよう!」

国のみどり交付金を活用して、市内の有機農業者の活動を盛り上げ、花巻市の農業を盛り上げよう!



(株)雨風太陽の力を借り、市内で個々に活動している農業者さんを集めて取り組みを始めた。 ◎マルシェの開催 ◎講演会と試食会の同時開催 ◎徳島県のオーガニックエコフェスタの視察 活動自体は有意義なものであったが…

(悩み)『複数の農業者が組織として有機農業に取り組む意味を計画に落とし込むことの難しさ』

実施計画の策定に難航 ⇒ しかし!令和6年度の秋までには有機農業実施計画とオーガニックビレッジ宣言必須!



実施計画策定のタイムリミットが迫っている!ビジョンは?計画は?目標は?市民は有機農業をどう考えているのだろう?協議会の設立は?別のコミュニティが必要?このまま自分達だけで計画を立て、実施していくというストーリーでいいのだろうか?(コンセプト)『計画は、みんなが自分事として未来のために考え、行動していくための指針』

「花巻市オーガニックビレッジに関するアンケート」を実施。関係者のニーズをつかみ、結果を計画に落とし込む!

(番外編)市の担当者の苦悩

疑問 深堀り 落とし込み

「有機農業」「オーガニック」のイメージはつくが用語の意味がハテナ? 有機農業の本質ってなんだろう? 用語の定義は定められている。 でももっとわかりやすく、市民に浸 透する「有機農業」の意味は?

一つの答え 「有機農業」とは...

⇒宮沢賢治「精神歌」でうたわれ ているような農(共に活かしあう)

疑問 深堀り 落とし込み

有機農業は地域で取り組むもの? 市の役割は?

市ができるサポートは、機械補助、 新規技術の導入支援・・・ 本当にそれだけ? 「産地づくりではなく地域づくり」 (秋田県立大学名誉教授 谷口吉光) ⇒『自分たちのまちを自分たちで つくり育てる』ための支援 (花巻市まちづくり基本条例)



花巻市オーガニックビレッジ宣言



- ★アンケートにより客観的な判断、根拠となる数値の取得ができた。
- ★有機農業実施計画策定に向け、検討を続けてきたメンバーで「花巻市有機農業推進協議会」を設立 (令和6年11月19日)。
- ★実際に取り組みをする中で活動の自由度をあげるため、協議会とは別に新たなネットワークの形成
- ★「花巻市有機農業実施計画」を策定(令和6年11月19日)
- ★花巻市オーガニックビレッジ宣言(令和6年11月27日)

<取り組みの一例>







(R6.11開催消費者周知イベント)



(R6.11花巻市有機農業推進協議会設立)



(R6.11花巻市オーガニックビレッジ官言式)

花巻市有機農業の推進に向けて一緒に活動している仲間























広がりが生まれる取り組み

「新規販路の開拓」という広がり

R6.10.1(火)

市主催のECサイトを活用した農畜産物販売の研修会







講師として来花した小堀夏佳さんが、島のやさいさんの ビジョンにほれ込み、その縁で伊勢丹新宿店で開催され たマルシェに出店。

花巻産の無農薬無化学肥料の野菜などを3日間販売した。(花巻市有機農業推進協議会支援)







現在でも、島のやさいさんから直接買い取りしている方が複数人いらっしゃり、お付き合いが続いている。

「技術の普及」という広がり

R7.6.16(月)

県主催の有機農業ステップアップ研修にて、当協議会会 長が事例発表及び見学ほ場の提供と説明









およそ75名の参加者が、農事組合法人みずほの所有する栽培技術を習得。常に新技術に挑んでいる会長から「失敗の連続」「いつでもほ場を見に来てください。」という言葉も。ノウハウを惜しみなく伝授する。

「仲間」という広がり

R7.6.6(金)

「はなまき環境保全会」が設立され、環境保全型農業直接支払交付金の申請母体をつくった。 今年度から取組を開始。

環境保全型農業直接支払交付金に取り組みたいが、事務の負担などから取り組まずにいた農業者の受け皿となる団体を目指している。

そのほか、地域おこし協力隊の活動協力もあり新しい広がりが始まっている。

有機農業×OO



- ■星山えほんの森保育園見学&交流会R7.6.28(土) in岩手県紫波町
- 当協議会の構成員が農園長を務める保育園。食材の大半が花巻市産の農産物。
- ・有機農業を通して、幼児教育・食育・環境保全・生産者と消費者の顔の見える関わり・健康・子育てなど様々な事象に対するプラットフォームのような存在になっている。









参加者の声

「有機農業に関心のある人をもっと巻き込むことを期待!」 「栄養士、調理士のひと手間かけた調理が生きている!」 「ビジョンがはっきりしていてそれをしっかり伝えている!」



今後、協議会としては、引き続き保育園と連携したイベントなどの開催を検討している。

活動していく中で見えてきたものと課題

農業×花巻=∞

花巻の豊富な資源を どう残すか?どう生かすか?



有機農業×〇〇

〇〇には環境、食の安心安全、 新規就農者、関係人口、地産地消、 中山間地・・・実現するには?

関係機関との連携

信頼関係をどのようにして築くか? 価値(ヒト、モノ、コト)をどう伝えるか?

安定した品質と供給

現時点で供給可能な農産物の量と種類など の把握をどのように行うか? 必要としている方に必要としてる分を どのようにしたら届けられるか?



今後の展望



6/28(土) オーガニック給 食提供施設の 見学と交流会

生産

9/7(日) 農村ワーク ショップ開催/ 12月初旬 流通

花巻市大迫町 の小学校へ 有機米提供 流通

12月初旬 花巻市東和町 の小学校へ 有機米提供 普及

12/6(土) 菌ちゃんふぁ―む代表 吉田俊道氏(菌ちゃん 先生)の講演会と オーガニックマルシェ/



生産

流通•販売

普及•啓発

- 新技術の検証
- 一生産者間の情報交換
- 〒 環境保全型農業直接支払

- ■産地直売所などでの販売
- 学校給食へ継続的な提供
- ─ ターゲットを絞った流通

- WEBサイト(はなまき有機ネット)の活用
- __ イベントの開催
- 子どもや保護者と生産者との交流

おわりに

みなさんの 活動紹介

これからも花巻市は持続可能な農業を目指し、 「豊かな自然 安らぎと賑わい みんなでつなぐ イーハトーブ花巻」 の実現に向けて有機農業の推進に取り組んでまいります。

なまえ	こんなことをしています	WEBサイト	なまえ	こんなことをしています	WEBサイト
農事組合法人みずほ	有機JASみずほ米、有機みずほ米、 特栽みずほ米を栽培・販売。R7年 産からみずほ米会員制度導入。		小田農園	化学肥料や農薬を使わないお米づく りを実践。地域でいち早くアイガモ農 法を取り入れた。地域の産直で販売 している	
島のやさい	園芸作物を無農薬無化学肥料で 栽培・販売。定期的にお話会を開 催しファンを増やしている。		ファームプラス	星山えほんの森保育園農場長。ご夫婦で保育園の運営を行い、園の理念に共感する地域の方々のプラットフォームになっている。	
GRATEFUL FARM	有機南部小麦、有機ねぎ、特別栽培ねぎを栽培・販売。		渡 健太郎	ワイン農家。ぶどうを無肥料・無化学 農薬で、野菜・穀類を自然栽培で育 てている。現在はワインの生産に向 け取組中。	準備中
はなまき有機ネット	花巻市有機農業推進協議会の活動内容やイベント情報などを発信しています。 その他、メールマガジンやLINEオープンチャットも!ご興味のある方はぜひご登録ください。				

